

銅輸入は内需不透明感などで減少

橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート①



■概況

十一月前半は、中間選挙で共和党が連邦議会の上下両院で過半数の議席を獲得。共和党の勝利が米企業活動の活発化につながるのとの期待感などのプラス材料はあったものの、OECDが二〇一四年の世界経済成長率を三・三％、二〇一五年は三・七％と予想したこと、十月の米サービス部門PMI改定値は五七・一に下方修正したこと、十月の米非農業部門雇用者数は二一・四万人増で予想の二三・五万人増を下回ったことなどのマイナス材料を受けLME銅相場はDOWN、十一月十五日時点で六、六九五ドル(セツル)と月初価格より一四〇ドルDOWNの前半締めとなった。

後半は中国人民銀行の金融政策委員、第四半期の指標を見極めて追加の金融緩和策を検討と発言したこと、九月の米住宅価格指数は前年比四・九％上昇、予想は四・六％上昇した事などプラス材料もあったが、十月の新規民元建て融資は五、四八三億元に減少、予想は六、五〇〇億元と中国の銀行融資減による景気減速懸念や、二十七日の石油輸出国機構(OPEC)総会で減産見送りが決まって原油安が進み「原油価格の動向に影響を受けやすい米国景気の拡大期待が強まり、ドル高を受けてLME銅相場は下落、十二月一日現在、後半スタート価格から二三六・六ドルDOWNの六、五一五・五〇ドル。銅建値八一万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)
一一・三二六→一一・九六五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・三％減の八一万六、九三六台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一三・五％減の二三万九、二〇七台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一二・三％減の七万九、一七二戸

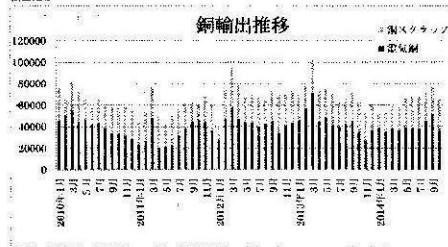
であった。

◆貿易関連指標

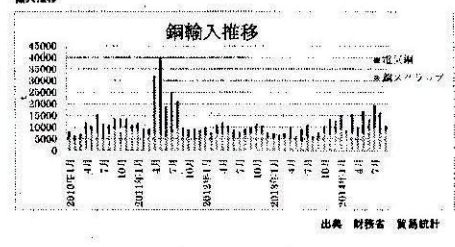
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二・四％増の三万五、八七六t、スクラップが八・三％増の二万九、四〇〇t。

輸入は電気銅が前年比一〇・四％減の三、三七二t、スクラップ一五・六％減の五、九七五t。

	8月	9月	10月
輸出			
電気銅	4万5284t	5万850t	3万5876t
前年比	+7.8%	+13.4%	+2.4%
スクラップ	2万5149t	2万9695t	2万9400t
前年比	+5.4%	-2.2%	+8.3%
輸出推移			



	8月	9月	10月
輸入			
電気銅	6727t	2296t	3372t
前年比	+868.2%	-14.2%	-10.4%
スクラップ	7552t	8404t	5975t
前年比	+44.2%	+59.0%	-15.6%
輸入推移			



■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比四・五％増の七万二、七八〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比一・〇％増の六万七、〇〇〇tであった。

(六面へ続く)

■概況
(四週より続く)

十月の四輪車生産台数は八万六、九三六台で、前年同月の八七、〇七五台に比べて五万四、六三四台・六・三％の減少となり、四カ月連続で前年同月を下回った。

十月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。乗用車六八、三〇七台・六・八％、九三、〇七五台・八・二％の減少となり、四カ月連続のマイナス。このうち普通車は三九、七五五台・三・三％、九一、七〇七台・七・九％の減少、小型四輪車は一四、四〇〇台・四・四％、二万八、〇〇〇台・一・七％の減少、軽四輪車は一四、四〇〇台・一・九％、一七、八七五台・一・二％の増加。

トラック一、七九七台・三・九八五台・三・四％の増加となり、二カ月連続のプラス。このうち普通車は五万五、八八二台・六・二〇六台・二・五％の増加、小型四輪車は二万七、七六五台・三・一〇一・二・六％の増加、軽四輪車は三万六、〇八一・五・三・三・二・九％の減少。

バス一、三三〇台・二・三二一・二・一％の増加となり、二カ月連続のプラス。このうち大型は一、〇二七台・一・一八％の増加、小型は二、二九七台・二・〇四四・三・〇％の増加。

十月の国内需要は三九、六五〇・五〇八台で、前年同月比六・〇％の減少であった。うち乗用車三三、八三三・二一三台・前年同月比七・四％の減少、トラック六万七、二三四台・同・一・三％の増加、バス九、四四四台・同・一・四％の増加。輸出は前年同月比一・六％の減少。(実績)

十一月の国内自動車販売台数(軽除)は三万九、二〇七台・前年比二・三・五％減と、四カ月連続のマイナス。うち乗用車一五・九％減、貨物四・一％増、バス二・七％増。

十月の住宅着工戸数は七万九、一七二戸で、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の影響が大きかった前年同月比では二・三％減となった。一方、季節調整済年率換算値では九〇・四万戸・前月比二・七％増で、三カ月連続の増。

待客・前年同月比では九カ月連続の減少(前年同月比二・八・六％減、季節調整値の前月比では一・七％減)。

(貸家)前年同月比では四カ月連続の減少(前年同月比四・一％減、季節調整値の前月比では四・四％増)。

(分譲住宅)前年同月比では九カ月ぶりの増加(前年同月比二・六％増、季節調整値の前月比では四・九％増)。

(分譲マンション)前年同月比では九カ月ぶりの増加(前年同月比二・三・三％増)。

(分譲一戸建住宅)前年同月比では六カ月連続の減少(前年同月比一・三・八％減)。

伸銅品生産は前年比四・五％増の七万二、七八〇tと、一六カ月連続のプラス。このうち内需五万九、四六〇tで一・三％増と、一四カ月連続のプラス。輸出二万三、三二〇tで二・四％増と、三カ月連続のプラス。品種別では、銅条は二万三、四九〇tで二・五％増と、一六カ月連続のプラス。黄銅棒一万五、六七八tで三・九％減と、三カ月連続のマイナス。板・条は自動車、半導体向けを中心に堅調。二〇〇八年五月以来の高水準が見られたが、黄銅棒は前月に続き住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。

銅電線出荷量は、前年比一％増の六万七、〇〇〇t。このうち国内一・四％減、輸出が五三・六％増。通信一九・四％減、電力四％減、電気機械一・五％減、自動車一〇％減、建設電版四・六％増、その他内需六・二％減。

%減

銅の輸出は、電気銅輸出が前年比二・四％増の三万五、八七六t。銅スクラップは八・三％増の二万九、四〇〇t。輸入は電気銅が一〇・四％減の三、三七二t。スクラップは一五・六％減の五、九七五t。

【見通し】

自動車は生産が前月に続き減少の六・三％減。また十一月の国内販売台数も前年比一・三・五％減と減少幅も拡大。販売の減少が続くメーカーもそれに伴い生産を調整した。輸出は今月も一・六％減と悪化。下げ止まりがいつか今後の動向に注目。

新設住宅着工数は前年比二・三％減と八カ月連続で減少した。ただ、季節調整済年率換算値で九〇・四万戸・前月比一・七％増。消費税率の駆け込み需要も終了。三カ月連続のプラスであり、今後の動向に期待する。

伸銅品は一六カ月連続増と好調。板・条は自動車、半導体向けを中心に二〇〇八年五月以来の高水準、堅調が見られたが、黄銅棒は住宅関連の低調さを受けて調整が続いた。

今後の動向に注目

輸出は二〇円近い大幅な円安トレンドや自動車、住宅生産の減少による需要減や先行きの不透明感から地金輸出が増加したとの見解。

輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感から減少したとの見解。

スクラップは、前月に続き為替が一二〇円近辺と前月に比べ五円程度、円安に振れていることや、それに伴う価格の上昇は期待できるが、電気銅建値が八四万に達した時点でほぼ在庫が放出されたことや内需の低迷や中国景気の後退が見え始めていることからスクラップの積極的な買いもなく、スクラップは供給過剰との見解。

【価格・為替予想】

今月は、原油価格やドル及び日本の衆院選後の政策に左右される。

WTI原油は二十七日のOPECで減産がなかったことから五五ドル割れま下ろす。

採算ラインとされる七〇ドルをあまり割り込んだ。ただ今回のOPECでもわかつたようにアメリカのシェールガス採掘に伴う石油からの脱却への警戒感から、OPEC諸国は価格よりむしろ石油のシェア拡大に重きを置いており価格対策による可能性は低い。また米国内にとっても原油安は年末のクリスマス商戦にプラス材料であることから放置気味。故に一旦は節目となる六〇ドルを割り込むのではないかと。

衆院選に関しては自民圧勝は間違いないが、また消費税の先延ばしも織り込み済みであり、選挙後の景気対策に期待している。

それらを踏まえた十二月の銅価格はWTI原油の急落への警戒感からOPECが何らかの策に言及し、六五・七〇ドル近辺で推移、それによるドル高、ユーロ安に歯止めがかかった場合、十一月高値の六、八〇〇ドルを予測。いずれかの場合は六、六〇〇ドル下値はこれらの条件も達成できなかった場合も一段安値の六、四〇〇ドル。

為替は先月の日銀の追加的金融緩和策の流れでWTI原油暴落に伴うドル高から二二〇円近辺まで下落した。今後OPECの方針を受けてWTI原油が六〇ドルに向かて下落するようであれば、ドル高から下値は二五円台。上値はOPECが価格維持の方針転換した場合、節目の二五円との予測(TTM)。

銅建値に関しては七八〇・八九〇円程度と予測している。